

# うたごえ新聞

1月4・11日

＜新春合併号＞  
(1982年)  
NO. 891

THE SINGING  
VOICE OF JAPAN

日本のうたごえ全国協議会機関紙  
発行 東京都新宿区大久保2-16-36  
☎03 (209) 0638~9 うたごえ新聞社  
振替口座 東京2-5631 昭和34年1月31日  
第三種郵便物認可 毎週月曜日発行  
1部80円(〒25円)・月330円(〒120円)



▲剣道2段の女剣士も両親思い、兄と学校も合唱団もいっしょです

## 春一番 娘ひと

### なかまの紹介

「やっど、うたごえのスターラインに立ったような気分なんです」  
——田辺裕子(ひろこ)さん二十歳。千葉合唱団に入団して今年で四年目をむかえます。  
「えー、入団したきっかけですか。お兄さんが千葉合唱団にはいっていたんで、私も大学一年の時に誘われてついでにきたんです」

「あに・いもうと」  
彼女、裕子さんとお兄さん輝行さん、実は中学、高校時代からずっと同じ学校、同じクラブ(剣道部)に籍を置いています。  
「中、高いっしょで、千葉合唱団もいっしょ。どこでもくっついてる。夫婦が仲が良いのより兄弟、仲のいい方がいいよ、なんていわれるんですよ」

そんな彼女、中学時代に剣道を始めた頃はちょうど女性の剣道ブームで、彼女たちの学校も地区で優勝して県大会に出場しました。  
しかし高校にはいってからは男の中に女性がいなくて、一人ではチームも組めず、もちろん試合にも出られないわけなんです。  
「私は何で剣道部にいるん

だろって悩みました。でも剣道しかないから剣道やるんだってがんばってきたんです」  
こうだ、と思ったら、とどんとつっ走ってしまう剣道二段の女剣士でもあります。  
「嬉しいことたくさんあるんですけど、一番うれしいのは、住

んでいる君津市から団のレッスンには、片道時間近くかかってしまってます」  
レッスンで遅くなることも、ちろん家には帰れず外泊してしまいます。  
「まちがったことをしてるとは思わないけど、まず家がある、その上のクラブだからね、文句をいわない両親が、見るにみかねてこういったこともありませう」  
両親に心配させまいと、一年の日本のうたごえ祭典には両親を呼びました。  
母親はあざやけ作業所や

「……、そういながらも話し出してくれました」  
「学生のうたごえで一生懸命やっている人を見て、イナリと思っ、二年の時に学園祭で四十人くらいのグループをつくってうたごえ会を開いたんです。その時の後輩たちが集まって今は同好会になっていますよ」と。  
でも、一番うれしいのは、住

の木作業所に感動して涙を流し、それからは親戚が集まるたびに、娘のやっしていることを自慢の種にしているそうです。  
82年は目を広げ  
昨年、県祭典で全県の青春メドレーの責任者になって、まわりのサークルに振り付けを教えにまわるようになってから彼女は変わりました。  
「今まで千葉合唱団だけだったのが、全県に目を広げられるようになりました。やっど、うたごえって、どういふものなのかわかりかけてきました」と。  
今年がスターラインだといふ彼女、今年こそ、家を出て千葉市内に住むんだ、といひます。  
「これで、思いっきりうたごえ、ができるわ」  
今年の抱負は、の記者の質問には、こう答えてくれました。  
「今年は、中央合唱団の研究生にはいります。音楽的にも理論的にも高くなつて県や千葉合唱団に帰さなくちゃ」  
(福島素子記者)

## 女剣士、いま合唱団へ

### 千葉合唱団 田辺裕子さん

……、そういながらも話し出してくれました」  
「学生のうたごえで一生懸命やっている人を見て、イナリと思っ、二年の時に学園祭で四十人くらいのグループをつくってうたごえ会を開いたんです。その時の後輩たちが集まって今は同好会になっていますよ」と。  
でも、一番うれしいのは、住



### —新年特集号—

杉浦幹事長インタビュー……	2面
旅と人とサークル——京都・北海道編……	3面
新春訪問 尾谷誠さん一家(福井)……	4・5面
山崎 憲子さん(東京)……	4・5面
——すいそふ・壬生照順、音楽ひと口話・堀成行	
本音インタビュー 小林千登勢さん……	6・7面
——はらたいらマンガ、芸能界いま昔	
地方版(手書き通信) 高知県……	8面
「行革」狂詩曲、新年音楽情報……	9面
82音楽展望——クラシック・ポピュラー……	10面
なかまの詩 新曲紹介「光れ中学生」……	11面
全国総会案内 非行とうたごえ、SUD II……	12面

八戸港が日本一の水揚げを記録した頃、配管士として働いていたことがある。漁師相手の、吹雪と油と低賃金にさらされ、酒で疲れをいやす毎日、十八歳の私を忍耐強くした。  
☆ ☆ ☆  
十面になるまでの相撲さんは、起床時間から食事の汁まで差がつく。  
暮下三十枚目まで下がった舞風は、なかなか「もう一度」という気が自分に起きなかった、という。  
☆ ☆ ☆  
千葉県・法華経寺の百目行は、大晦日までの修行で水ごもり、日の出からの読経、一日二食の菜食がつづく。  
滋賀県の寺では、死者も出る夜間山行を尼さんが敢行する、と聞く。  
☆ ☆ ☆  
大森勲銀の近田才典被告は、無実なのに殺人罪で十一年も泣いている。  
その母の、おおせいの支援者の前で語ったことばが、たったひとこと「息子を助けて下さい」だったから、家族の苦しみはどれほどか、よくわかった。  
☆ ☆ ☆  
九州のあるサークルを訪ねたら、運動の課題(フォルマ)はみんな達成しているのに、会員だけが増えないという。  
大衆活動の法則にしたがっているのに、という悩みは切実だった。  
☆ ☆ ☆  
忍潮は  
春にむけての  
蕾(つばみ)の如し  
(未)